

Yamagata University

Annual Plan 2016



山形大学
2016年度
行動計画



3つの使命

社会における役割・存在意義

―何を成すために山形大学が存在するのか―

地域
創生

次世代
形成

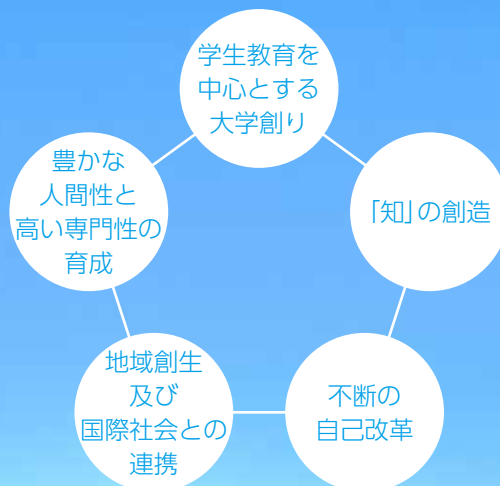
多文化
共生

5つの基本理念

組織のあるべき姿

―役割を果たすために何を為すのか―

山形大学は、
「自然と人間の共生」をテーマとして、
右の5つの基本理念に沿って、
教育、研究及び地域貢献に全力で取り組み、
国際化に対応しながら、
地域変革のエンジンとして、
キラリと光る存在感のある大学を目指す。



「山形大学で学んで本当に良かった。」 そう言ってもらえることが 私たちの願いです。

山形大学長

小山 清人

KOYAMA Kiyohito

2016年度（平成28年度）の行動計画として「Annual Plan 2016」を策定しましたので、ここに公表いたします。

今、我が国は、人口減少と少子高齢化の進展、地域社会の衰退、国際化によるボーダレス化、デフレ経済からの脱却といった様々な問題に直面しています。そのような状況において、社会の変革を担う人材の育成、知的基盤の構築、イノベーションの創出など、大学が果たす役割への期待が大きくなっています。

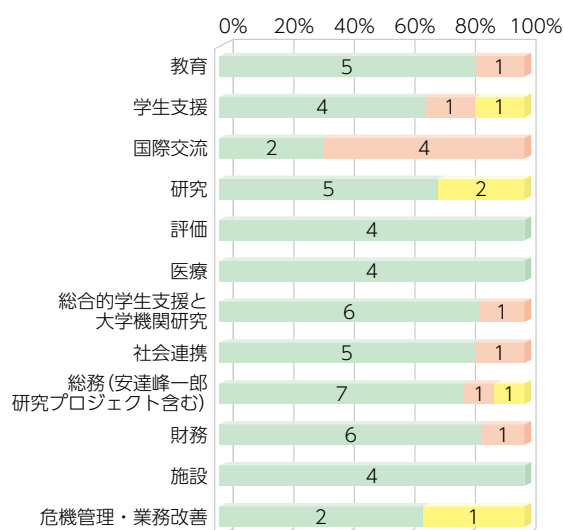
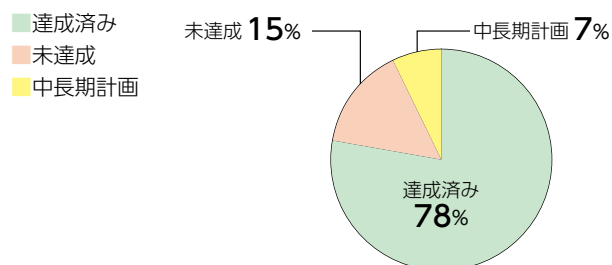
山形大学は、「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」を使命として掲げ、毎年度行動計画を策定し、社会の期待に応えるべく教職員が一丸となり努力しています。

平成27年度をもって6年間の第2期中期目標期間が終了します。第2期においては、「基盤教育の充実」「先進的研究拠点の形成」「附属病院の強化」「経営手法の改革」などを中心に大学経営を進め、一定の成果をあげることができました。特に、有機エレクトロニクス研究やナスカ研究は、世界に誇れる成果をあげています。

平成28年度からスタートする第3期中期目標期間においては、第2期までの実績をベースとし、「実践力と人間力を備えた人材の育成」「地域の課題を解決し世界をリードする研究の推進」「産業界等との連携による地域変革の牽引」「学生・教職員・地域の国際化の推進」「経営資源の戦略的活用による大学の特色の強化」に重点を置き、教育研究活動を展開していきます。

今年度は、新たに有機材料システム研究科を設置します。世界的教育研究拠点での高度専門人材の育成にご期待ください。山形大学は、一人ひとりの学生にとって最善の教育が提供できるよう、そして社会から必要とされる人材を輩出できるよう、常に新しい試みに挑戦しています。今後とも、本学の教育研究活動に対し、ご理解・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

Annual Plan 2015 の達成状況





CONTENTS



教育
学生支援
国際交流

担当理事・副学長 安 田 弘 法

06

研究
評価
病院

担当理事・副学長 久 保 田 功

07

総合的学生支援(EM)と
大学機関研究(IR)
(Enrollment Management &
Institutional Research)

社会連携

担当理事・副学長 大 場 好 弘

08

総務
広報

担当理事・副学長 阿 部 宏 慈

09

財務
施設

危機管理・業務改善

担当理事・副学長 萩 原 均

10

11

山形大学附属博物館

担当理事・副学長

安田 弘法
YASUDA Hironori

教育 学生支援 国際交流



●教育の基本方針

教養教育と専門教育を連動させた「基盤教育」を基に学士課程教育の体系化と、大学院課程教育の充実・強化を図り、幅広い教養と実践力を身に付け、知・徳・体の調和のとれた人材を育成します。

●学生支援の基本方針

学生目線に立った視点で学生のニーズを的確にとらえ、卒業までの学生生活が充実するように学生への手厚い支援を実施します。

●国際交流の基本方針

学生・教職員・地域の国際化を図るため、グローバル社会で活躍できる人材を育成するとともに、外国人留学生の受入を拡大します。

2016年度 行動目標

PLAN 1

高度な人間力と専門力を育成するため、「学士課程基盤教育機構」を中心に3年一貫学士課程基盤教育プログラムを構築するとともに、授業科目の学習到達目標等を学生に分かりやすく提示する仕組みを整備します。

PLAN 2

教育の質を保証する体制を強化するため、「次世代形成・評価開発機構」を有効に機能させ、「基盤力テスト」を作成して学習効果を可視化します。

PLAN 3

学生の充実した学修を実現するため、スマートフォンやタブレットなどの利用、SNSによる情報発信を行うなど、学生の多様なニーズに応える学修支援を行います。

PLAN 4

学生の学修・生活・キャリア形成を支援するため、学生とのキャンパスライフ懇談会を全学対象に年2回開催し学生のニーズを支援に反映するとともに、きめ細やかなインターンシップの実施とその充実を図ります。

PLAN 5

国際化を促進するため、新興国サテライトに学生や教員及び職員大使を100人以上派遣し、グローバル社会で活躍する人材の育成を図るとともに、小白川、米沢、鶴岡キャンパスで学生大使経験者等による日本語教室を開設します。

●研究の基本方針

国際的に通用する高い水準の研究及び地域に貢献する研究等を推進するとともに、研究者が十分に能力を発揮できる環境を整備します。

●評価の基本方針

山形大学の教育研究活動等の状況について、不断の自己点検及び評価を行い、諸活動の活性化と更なる質の向上を図るとともに、社会への説明責任を果たします。

●病院の基本方針

健全な病院経営を基盤とし、地域に最高水準の医療を提供します。



担当理事・副学長

久保田 功

KUBOTA Isao

研究
評価
病院



2016年度 行動目標

PLAN 1

科研費の採択額増加を図るため、継続課題を有しない教員に係る平成29年度科研費新規課題の申請率について、平成28年度科研費申請率76.4%から10ポイント増を目指します。

PLAN 2

第2期中期目標・中期計画期間中の法人評価において求められている客観的根拠や適切な根拠資料の提供を通じた厳正な自己点検・評価の実施、本学の各種報告書の取りまとめの支援などを通じて適正な評価が得られるように取り組み、評価結果を社会に対してわかりやすく概要を付けて公表します。

PLAN 3

健全な病院経営を推進するため、経費抑制のための方策を企画・実行し、医療費を1億円削減（平成27年度比）します。

PLAN 4

次世代型重粒子治療施設開発に関する研究を推進し、従来の治療施設にはない新技術「加速器と照射室の多層構造（CUBE型）」及び「スキャニング照射に最適化された遮蔽構造」を具備する実施設計を完成させます。

担当理事・副学長

大場 好弘

OHBA Yoshihiro

総合的学生支援(EM)と 大学機関研究(IR)

〈Enrollment Management &
Institutional Research〉

社会連携



●総合的学生支援(EM)、 大学機関研究(IR)と 社会連携の基本方針

総合的学生支援(EM)と大学機関研究(IR)により大学経営改善に貢献するとともに、教育研究成果の社会還元により「地域創生」のエンジンとしての役割を果たします。

2016年度 行動目標

PLAN 1

志願者の能力・適性等を多面的・総合的に評価するための入試を推進するため、推薦入試及びAO入試の拡大を図り、平成29年度入試から対応可能な学部から実施します。

PLAN 2

入学志願者数確保のため、県内外の入学実績高校25校以上に担当理事が訪問し本学の強み・特色等を説明するとともに、山形大学の魅力を体験的に伝えるために高校等から本学への訪問者数5,000人を目指します。

PLAN 3

学内の主要情報を網羅したファクトブックの全学提供を本格的に実施するとともに、100%の研究者データの収集を基に、国内外の研究データベースとの接続により各部局ごとの研究の強み分析を行い、国際的な学術論文数の増加を支援します。

PLAN 4

「URA(リサーチ・アドミニストレーター)推進本部」を本格的に稼働させ、大型研究プロジェクトの運営支援を行うとともに、新たな大型研究プロジェクトの獲得を3件程度支援します。また、研究成果として作成された有体物を企業等に提供するMTA(Material Transfer Agreement)の活動を加速し、年間契約件数15件を目指します。

PLAN 5

地域社会を再生し人口減少状況下においても、なお、持続可能な地域社会を実現するため、地(知)の拠点整備事業を始めとする諸事業を展開するとともに、東北創生研究所において、地域の課題に係るプロジェクトの研究成果を活用しつつ当該地域と連携し、5件以上の実証結果を取りまとめます。

●総務の基本方針

学長を中心とした効率的な大学経営を支える機能的な組織整備・運営を行うとともに、ワーク・ライフ・バランスを一層推進し、多様な人材の育成と能力が発揮できるダイバーシティ環境を構築し、また情報発信の多様化と国際化を推進します。

【安達峰一郎研究プロジェクト】

山形県が生んだ世界の偉人「安達峰一郎博士」に焦点を置いた5年間の研究プロジェクトの最終年度にあたり、これまでの研究成果を地域や社会に還元し、また、安達峰一郎博士の功績を改めて顕彰することを目指し、報告書を取りまとめ出版・市販するとともに、山形市においてシンポジウムを開催します。



担当理事・副学長

阿部 宏 慈

ABE Koji

総務
広報

2016年度 行動目標

PLAN 1

「山形大学未来基金」の受入体制を見直し、学生支援基金奨学金等の他の基金も含め、前年度受入額比15%増を目指します。

PLAN 2

事務職員の更なる資質向上を目指し、職位ごとに求められる役割及び能力に合わせ、新たにキャリアマップを作成し、体系的な研修システムを整備します。

PLAN 3

年俸制を段階的に拡大し、新たに15人の年俸制適用教員を増やします。

PLAN 4

新たに整備したライフイベントからの研究復帰支援制度や夜間保育等の利用料補助制度等、各種支援制度の活用を増加させ、女性教員比率15%及び女性管理職比率5%を目指します。さらに、年次有給休暇取得率向上を推進し、実現のために勤怠システムを全学的に導入します。

PLAN 5

新たに策定した「山形大学広報戦略」により、戦略的なメディアミクスを展開します。具体的には、リニューアルしたWebサイト、広報誌、学長定例記者会見、公式SNS及び学生広報YUM!等により本学の魅力や取組を積極的に広報し、新聞掲載回数とweb閲覧数をそれぞれ前年度比1.3倍を達成します。

担当理事・副学長

萩原 均
HAGIHARA Hitoshi

財務 施設

危機管理・業務改善



●財務の基本方針

教育・研究・診療及び社会貢献など、本学の役割を確実に果たしていくとともに、社会の期待に応えた本学業務の機能強化を図るため、財務会計業務全体を把握し、効率的、効果的及び健全な財務運営を目指します。

●施設の基本方針

教育研究活動の基盤である施設を長期にわたり良好な状態で維持するとともに、安全・安心な環境の確保と、質的機能の向上を目指します。世界水準の教育研究成果の確保を目指し、本学の理念に相応しいキャンパス環境の整備充実を計画的・重点的に推進します。

●危機管理・業務改善の基本方針

大学の社会的責任を果たすため、法令遵守及びリスクマネジメント体制を整備して内部統制機能を強化するとともに、機能的な大学経営の整備を進め、業務の見直し及び改善を不断に推進します。

2016年度 行動目標

PLAN 1

2015年度に「新たな収入の増を考えるプロジェクトチーム」が提言した「提案書」を基に、実施可能なものから随時実行し、3,000万円以上の自己収入の増を図ります。

PLAN 2

2015年度に見直した「山形大学における経費抑制に関する行動計画」に基づき経費抑制のための取組を推進し、一般管理費比率を3%に抑制します。

PLAN 3

エコキャンパス整備支援事業（学内募集）など地球環境に配慮した施設整備を行うとともに、鶴岡団地のエネルギーの使用状況、省エネルギーの取組を調査し、改善点を取りまとめます。

PLAN 4

全事務組織で「山形大学労働生産性向上プロジェクト」を実施し、大学職員としての意識改革を図り、全課全室において、1件以上の業務の見直し・改善を行い、特に労働生産性向上が顕著な課を表彰・報奨します。

山形大学附属博物館

The Museum of Yamagata University

平成27年11月27日に
開館



■ 沿革

昭和の初期、全国的に郷土教育が盛んになったとき、本学地域教育文化学部の前身であった山形師範学校では、郷土の博物資料を収集し、これを保管・展示するための「郷土室」を設けていました。

その後、昭和27年4月17日「博物館法」に基づき、「博物館相当施設」として、文部省の指定により「山形大学附属郷土博物館」として発足し、さらに、本学の発展に伴い、資料も各分野ごとに広く収集され、その性格が郷土性を越えたため、昭和53年5月31日から、館名を「山形大学附属博物館」と改めました。

山形大学小白川図書館3階にあった当施設は、平成27年11月27日より人文学部1号館1階に移転し、現在に至ります。

地域文化の伝承



Yamagata University Annual Plan 2016

アニュアルプランは毎年度達成状況を検証します。
ご意見・ご要望は、下記までお願いします。

【編集発行】山形大学役員会

【お問い合わせ先】山形大学企画部企画課

〒990-8560 山形市小白川町 1-4-12

Tel : 023-628-4190 Fax : 023-628-4849

e-mail : kikadai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

【ホームページ】<http://www.yamagata-u.ac.jp>